



# 日刊ゲンザ

平成21年(2009)3月2日 月曜日 第1624号 昭和41年8月27日 第三種郵便物認可 (第1、第3、第4月曜日発行) 購読料 1ヵ月3,000円

## この人に聞く

### 電子遺言バンク株式会社

#### 代表取締役 藤田昌三氏



「大商EVEシステム」第7期支援対象企業に認定された電子遺言バンク(大阪市)の藤田昌三社長に、新規ビジネスに賭ける意気込みを伺った。

## 『大商EVEシステム』の対象企業に

年頃から考えていました。私の場合、それまでた。実現したいと思いな 仕事が多忙で、父とのコがら、なかなか機会がな ムニケーションがとれ なかった。

そのような中、2006年8月に私の父が亡く、Eシステム認定へのプレ なり、その時、父の伝 言が何処かに保存さ せていた。昨年12月に募集があり、 言が何処かに保存さ せていた。昨年12月に募集があり、

## 故人が遺したかった

## 「情報」伝達をサポート

た。しかし、メディアコ 頂きました。まず会社を システムの対象として、 ないからです。このシス テムが対象としているの が遺したい。情報を電 子遺言バンクでサポー ト人に「こんなことを伝え たい」という、意

ように意識されますか。 バルは松竹芸能さんでし た。吉本興業さんは東京 に進出されて、ライブパ ーティは東京であり、劇団四季さ んに変わっていったと思 います。

大阪は地の利がありま す。人間関係が多く、私 が事業をスタートする場 所は大阪が最適と思いま した。東京

「意思」は遺言(いご) で遺りますが、故人 が遺したい。情報を電 子遺言バンクでサポー ト人に「こんなことを伝え たい」という、意

「起業者(アントレ プレーナー)として(関西 ・大阪)という地をどの